**都道府県委員長会議への報告レジメ**

　２０２２年５月９日　参議院選挙闘争本部長　小池晃

会議の目的

活動の飛躍をかちとることができるなら、参議院選挙で勝利・躍進をつかめるが、飛躍がかちとれなければ、残念な結果になりかねない――まさに勝負のかかった頑張りどころ。

幹部会報告を一刻も早く徹底し、全党が身につけ、参院選勝利をめざす活動の文字通りの飛躍をはかる意思統一を行う。

**１、幹部会報告にもとづく政治論戦が生きた力を発揮している**

党ならではの論戦で、全面的に攻勢をかけられる局面をつくりだしつつある。

ウクライナ侵略への立場と日本共産党の安全保障論

――岸田自公政権との対決点、翼賛勢力の危険性、党の値打ちが鮮明になっている

1. どうやってロシア・プーチン政権による侵略を終わらせるか、日本共産党は｢国連憲章に基づく平和秩序の回復｣という一番道理に立った解決方向を示している。
2. 憲法９条を生かした外交で東アジアに平和を創出する「外交ビジョン」の意義が鮮明に。岸田首相も「重要だと思う」と発言したが、問題は本気でとりくむのか否かにある。　自民党安保調査会は、「敵基地攻撃能力」を「反撃能力」と言葉だけ変えて「保有」を求め、攻撃対象を「敵基地」だけでなく「指揮統制機能等」まで広げ、軍事費を５年以内にGDP比２％以上にすることを提言。日本共産党の躍進で、「軍事対軍事」の危険な道に引き込む９条改定を止め、９条を生かした外交で平和の東アジアを。
3. 核戦争の現実的危機が生まれているもとで、この機に乗じて「核抑止力」強化の議論を唱えることは絶対に許されない。｢核共有｣を政府に提言する｢維新の会｣には、被爆国の政党としての資格はない。「核抑止力」論の大合唱が起こるもとで、「核抑止」批判を徹底的に行い、「核兵器のない世界」をつくる先頭にたっているのが日本共産党。
4. ロシアによる入国禁止措置で志位委員長が対象に――ロシアの国際的孤立を自ら深める愚かな決定だが、ロシアの覇権主義を最も理性的に、最も厳しく批判してきた日本共産党の姿を、当のロシア政府の決定によって浮き彫りにする結果。

物価高騰のもとで、「やさしく強い経済」をつくる大改革が急務に

* + 物価高騰の原因は、「新型コロナ」と「ウクライナ侵略」だけでなく、「アベノミクス」のもとでの「異次元の金融緩和」による異常円安、自公政権の失政の結果。新自由主義を転換し「やさしく強い経済」をつくる５つの大改革の提案がいよいよ急務に。
  + 消費税５％への減税、インボイス制度の導入の撤回を。６月に控える年金削減と１０月に予定されている７５歳以上の医療費２倍化の中止を。賃金が上がる国へ。ジェンダー平等、気候危機打開も強く求められている。
  + わが党の経済提案に国民から熱い激励が。あるメディア幹部からは、「アベノミクスの転換を正面から言える共産党の経済提案にあらためて光が当たる…」。
  + 「５つの大改革」の提案は、財界中心の政治の歪みの根本にメスを入れる立場をもつわが党ならではの先駆的提案。経済界も含めて共感を広げうる。「これを実行することが経済を強くすることにもつながる」という角度も重視し、語りぬこう。

党綱領は参院選の熱い焦点になりつつある

* + 党綱領は、「現実離れ」どころか、現実に立脚して社会を変える確かな道筋を示している。支配勢力が攻撃の焦点としているどの問題も、日本共産党の値打ちが一番輝く問題。綱領を学び、政治的にも理論的にも強い党をつくってたたかうことがこんなに大事な選挙はない。
  + 『新・綱領教室』の発表記者会見には、２６社から記者３２人が党本部での取材に。
  + 自衛隊問題の段階的解決の方針も熱い焦点になっている。党の安全保障論の全体を伝えていく中で、この問題でも党綱領の立場を大いに語ろう。

幹部会報告の徹底・実践に総力をあげ、勝利への大攻勢をかけよう

* + 討議・具体化支部は５９．５％、届け５５．２％、読了・視聴は２５．９％。全党への徹底を最優先課題に位置づけ総力を。
  + 一回読んで終わりとせず、実践に踏み出しつつ、くりかえし幹部会報告にたちかえり、腑に落ちるまで深めよう。「元気の出る政治指導・実践活動」に徹して奮闘を。
  + 参院選予定候補者会議での志位委員長の発言、『新・綱領教室』、「大学人のつどい」での志位委員長の講演を、幹部会報告とあわせて学習し、自信をもって党の立場を語ろう。

**２、参院選勝利をめざす活動の到達点と課題**

総選挙後の活動の到達点をどうみるか――大逆流に立ち向かい、押し返し始めている

* + 宣伝・組織活動の到達――声の宣伝４６・６万回、政策ポスター張り出し４５．６％、対話１８７万、支持拡大１０３万、担い手広げ３７万。１６年参院選の同日比で、対話は９７・６％、支持拡大は１１４・５％、大きく遅れていたところから追いあげている。
  + 党勢拡大――党員拡大が引き続く課題だが、読者拡大では、４月は全体として「赤旗」読者で連続後退から前進に転じた。
  + 参院選のとりくみの到達点を、支配勢力による攻撃と、それに正面から立ち向かう党の活動のせめぎあいのなかでとらえる――党綱領に対する様々な攻撃に対して４中総の方針に立ち、「はてな」リーフを戦略的な資材として活用し反撃。ウクライナ侵略が起こり、「九条は無力」「国連は無力」「プーチンはもともと共産主義」などの事実無根の攻撃にも、４月７日の幹部会報告を力にたちむかってきた。わが党ならではの理性的で戦闘的な底力が発揮されている。
  + 平和と憲法の危機を前に、広い国民のなかで平和への強い願いが沸き起こり、党への新たな期待も広がっている。「朝日」調査で、憲法９条について、「変えるほうがよい」３３％、「変えないほうがよい」５９％。暮らしと営業の願いもいよいよ切実さを増し、わが党の経済提案に幅広い人々から共感が寄せられている。

参院選は各党が総力でぶつかりあう大激戦――「比例を軸に」をすえて党躍進の流れを

* + 自民党は総裁直属の特別機関「参院選戦略策定本部」の初会合を開催、これまでにない選挙態勢で急速に動きを活発化。「維新」は、比例代表で２０人を超える候補者を擁立し、街頭での動きを加速。５月、６月、自公と補完勢力に絶対負けない構えで、宣伝・組織活動をやりぬいてこそ、勝利・躍進の道は開かれる。
  + 「比例を軸に」を大方針にすえ、党の政策、綱領・理念・歴史を正面から語り、党の積極的支持者を広げに広げて比例での党躍進の流れをつくることが、いつになく重要に。比例での躍進の流れをつくってこそ、「６５０万票、１０％以上、５議席絶対確保」の実現はもちろん、選挙区の勝利も、野党共闘の前進・勝利もひらかれる。
  + 比例候補５人は一人も欠かすことができないベストチーム――比例５人の当選に全国の党組織が共同の責任を負っていることを深く自覚し、「比例代表選挙は日本共産党と書いてください」という訴えを。
  + 市民連合と各野党の政策合意の確認を準備――市民と野党の共闘が次につながる成果をあげるよう、党は引き続き力をつくす。
  + 今後の共闘の発展には党の躍進がどうしても必要――野党統一候補でたたかう選挙区でも、共闘発展の推進力となる党躍進を堂々と訴え、比例を軸にした躍進の流れを。

宣伝・組織活動の強化点について

* + やるべきことは幹部会報告で明瞭、５中総延期にともなう諸課題の達成期日もあらためて明確に――①全有権者を対象にした大量宣伝、政策ポスター、連名ポスターをはりきる、②５月末までに「はてな」リーフを一枚残らず活用し、１千万対話、「第一次折り入って作戦」をやりきる、③党員・読者の拡大で４月から前進をかちとり、５月はさらに大きな前進をつくる。
  + 現在の到達と４月の教訓をふまえた強化点

　――大量政治宣伝、声の宣伝とポスター張り出し、SNSの発信のさらなる強化を。１４日～２２日、ポスターの「いっせい張り出し期間」をよびかける。宣伝カー・ハンドマイクのフル稼働で声の宣伝も大展開を。

　　――１千万対話、「第一次折り入って作戦」をどうやりぬくか。①誰もが持っている平和、暮らしの願いに、まっすぐ働きかける、②〝疑問が出ることはチャンス〟ととらえ、「はてな」リーフを徹底活用し、対話でぶつかった声にこたえる学習と交流を重視する、③参院選比例にふさわしく、「全国は一つ」で結びつきを生かしてとりくむ、④名簿準備、臨時電話、対話スポット、集約体制、ニュース発行をはじめ試され済みの臨戦態勢の確立をはかる、などの努力が共通して行われている。募金も広くよびかけを。

　――党の自力をつけながら選挙をたたかう。４月の読者拡大の前進を確信に、５月は読者拡大でさらに大きな前進を。党員拡大の独自の手立てを特別に重視し、すべての支部が新しい党員を迎えるとともに、選挙のなかでこそ青年学生、労働者、３０代～５０代に働きかけ、党の世代的継承を。志位委員長の「学生オンラインゼミ」講演ブックレット（民青同盟発行）の活用を。

４中総後の中間地方選挙の後退の最大の要因は、党の自力の後退。党員拡大を根幹とした党勢の上げ潮をつくることに執念を燃やして奮闘してこそ、参院選勝利の道も、党の未来を開く力もつくられる。

　――感染対策に万全を期しつつ、リアル参加を重視し、第二次遊説の演説会の成功を。選挙勝利をめざす活動の推進軸としての「集い」の抜本的強化を。

飛躍のカギは、全支部・全党員の総決起――すべての党機関が臨戦態勢確立を

* + ４中総決定・幹部会報告の未討議支部を残さず、名簿を握って全党員読了をやりぬき、〝歴史的選挙にたちあがらざる党員なし〟の選挙に。
  + 地方議員が、支部とともに自治体・行政区の臨戦態勢を確立して、自らの選挙として、参院選・統一地方選を一体にたたかおう。
  + 「参議院選挙勝利　全国職場支部・グループ決起集会」（２２日・午前１０時～）を力に、労働者の命とくらし、平和を求めてたたかう職場支部の真価を発揮し奮闘を。
  + 後援会とともにたたかう選挙に。分野別後援会の活動を強化し、「全国は一つ」で、要求活動、運動団体での結びつきを生かし、支持・協力を。
  + すべての党機関が、わが党が現にもっている潜在的な力を、臨時の選挙ボランティアも含めて総結集し、すみやかに臨戦態勢をつくることが決定的――都道府県委員会とともに、地区委員会、自治体・行政区の段階での臨戦態勢の確立を。

以　上